

令和3年8月 東京地区百貨店売上高概況

令和3年9月24日

I. 概況

1. 売上高総額	745億円余
2. 前年同月比（増減率）	-9.1%（6か月ぶりマイナス）
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-9.5%（89.0%）：非店頭-5.6%（11.0%） （ ）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 24店（令和3年7月対比±0店）
5. 総店舗面積	803,625㎡（前年同月比：-2.5%）
6. 総従業員数	15,469人（前年同月比：-5.5%）
7. 3か月移動平均値	1-3月 -12.4%、2-4月 26.5%、3-5月 63.6%、 4-6月 51.3%、5-7月 16.3%、6-8月 1.5%

【参考】 令和2年8月の売上高増減率は-29.1%（店舗数調整後）

【特徴】

- 8月の東京地区は、デルタ株による感染症急拡大で外出自粛傾向が強まったことに加え、中旬からは政府コロナ分科会の提言を受け、人流抑制のため混雑時の入場制限を実施した影響から、入店客数(10.0%減/5か月ぶり)、売上高(9.1%減/6か月ぶり)ともに前年実績を下回った。コロナ禍前の前々年(2019年)対比では、入店客数(49.6%減)は半減、売上高(35.5%減)も7月よりマイナス幅が13.4ポイント広がり、より一層厳しい商況となった。
- 商品別では、主要5品目全てがマイナスとなった。衣料品(17.7%減/2か月ぶり)は、クリアランスの不調やビジネス需要の停滞から大きく数字を落としたが、中旬の気温低下でブルゾン、ジャケットなど羽織ものやカーディガンなどニット素材の秋物衣料に一部動きが見られた。身のまわり品(9.7%減/6か月ぶり)はラグジュアリーブランドの需要は高いが、婦人・紳士靴やハンドバッグなどは外出機会の減少から苦戦が続いている。
- 雑貨(3.9%減/6か月ぶり)は、トータルでは前年を下回ったが、細分類の美術・宝飾・貴金属(8.4%増)は7か月連続のプラスとなった。富裕層消費の増勢が続いていることで、高級時計を中心に高額品が好調に推移した。食料品(1.4%減)は入店客数減や、天候不順で不作が続く野菜など生鮮食品(14.0%減)の不調で6か月ぶりのマイナスとなった一方、長引くコロナ禍での巣ごもり消費で、菓子(1.7%増)、惣菜(1.5%増)、酒類を含むその他食料品(0.9%増)は底堅い需要を維持し、6か月連続のプラスとなった。
- 9月中間段階の商況は、1.9%減(9/15)で推移している。前々年比では約35%減となり、依然厳しい商環境が続いている。

【要因】

- 営業日数増減 30.9日（前年同月比 ±0.0日）
- 入店客数増減（回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数18店舗）
①増加した：1店、②変化なし：1店、③減少した：16店
- 8月歳時記（夏休み、お盆）の売上（同上／有効回答数15店舗）
①増加した：1店、②変化なし：4店、③減少した：10店

東京地区百貨店 売上高速報 2021年8月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	74,534,890	100.0	-9.1
紳士服・洋品	4,590,378	6.2	-13.7
婦人服・洋品	9,062,204	12.2	-19.1
子供服・洋品	931,070	1.2	-22.6
その他衣料品	1,103,658	1.5	-17.3
衣 料 品	15,687,310	21.0	-17.7
身のまわり品	11,300,291	15.2	-9.7
化粧品	6,877,903	9.2	-12.2
美術・宝飾・貴金属	9,028,758	12.1	8.4
その他雑貨	2,986,867	4.0	-14.8
雑 貨	18,893,528	25.3	-3.9
家 具	1,022,889	1.4	-13.3
家 電	768,421	1.0	12.4
その他家庭用品	2,006,609	2.7	-23.6
家 庭 用 品	3,797,919	5.1	-15.4
生 鮮 食 品	3,138,807	4.2	-14.0
菓 子	5,140,734	6.9	1.7
惣 菜	5,049,086	6.8	1.5
その他食料品	7,165,180	9.6	0.9
食 料 品	20,493,807	27.5	-1.4
食 堂 喫 茶	1,110,609	1.5	-29.1
サ ー ビ ス	1,529,030	2.1	-13.8
そ の 他	1,722,396	2.3	-19.2

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	1,228,991 千円	-21.7
従 業 員 数	15,469 人	-5.5
店 舗 面 積	803,625 m ²	-2.5

営 業 日 数	30.9 日	前 年	30.9 日
---------	--------	-----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

身のまわり品、雑貨、食料品が6か月ぶり、衣料品が2か月ぶり、家庭用品が2か月連続のマイナスとなり、主要5品目全てがマイナスとなった。その他の品目は、美術・宝飾・貴金属が7か月連続、菓子、惣菜が6か月連続のプラスとなったが、婦人服・洋品が6か月ぶりにマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	-9.1	—	6か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-13.7	-0.9	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-19.1	-2.6	6か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-22.6	-0.3	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-17.3	-0.3	2か月ぶりマイナス
衣料品	-17.7	-4.1	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-9.7	-1.5	6か月ぶりマイナス
化粧品	-12.2	-1.2	2か月ぶりマイナス*
美術・宝飾・貴金属	8.4	0.9	7か月連続プラス*
その他雑貨	-14.8	-0.6	2か月ぶりマイナス*
雑貨	-3.9	-0.9	6か月ぶりマイナス
家具	-13.3	-0.2	2か月連続マイナス
家電	12.4	0.1	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-23.6	-0.8	2か月連続マイナス
家庭用品	-15.4	-0.8	2か月連続マイナス
生鮮食品	-14.0	-0.6	3か月連続マイナス*
菓子	1.7	0.1	6か月連続プラス*
惣菜	1.5	0.1	6か月連続プラス*
その他食料品	0.9	0.1	6か月連続プラス*
食料品	-1.4	-0.4	6か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-29.1	-0.6	6か月ぶりマイナス
サービス	-13.8	-0.3	3か月連続マイナス
その他	-19.2	-0.5	6か月連続マイナス
商品券	-21.7	-0.4	3か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>